



～広陵西小学校区～

陵町コミュニティカルテ



平成30年7月

広陵西小学校区

1. 区域

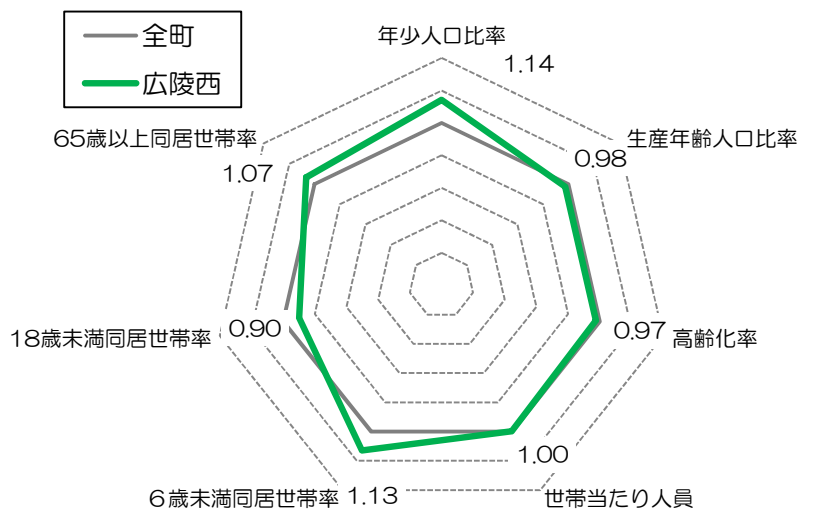
学校名	通学区域
広陵西小学校	大塚・安部・平尾・疋相・三吉（広陵東小学校・真美ヶ丘第二小学校の通学区域除く）・笠

2. 主要統計指標（基準日：平成 29 年 12 月末日 ※同居世帯数（世帯率）は平成 25 年 9 月）

■広陵西小学校区

項目	広陵西	順位	全町
総人口	10,046 人	1	35,002 人
面積	4.4 km ²	3	16.3 km ²
人口密度	22.8 人/ha	3	21.5 人/ha
年少人口（0～14 歳）	1,719 人	1	5,247 人
生産年齢人口（15～64 歳）	5,942 人	1	21,232 人
老年人口（65 歳以上）	2,385 人	1	8,523 人
年少人口比率	17.1%	1	15.0%
生産年齢人口比率	59.1%	3	60.7%
高齢化率	23.7%	3	24.4%
世帯数	3,717 世帯	1	12,914 世帯
世帯当たり人員	2.70 人	2	2.71 人
6 歳未満同居世帯数 （世帯率）	445 世帯 (13.3%)	1 1	1,419 世帯 (11.8%)
18 歳未満同居世帯数 （世帯率）	720 世帯 (21.5%)	2 3	2,887 世帯 (23.9%)
65 歳以上同居世帯数 （世帯率）	1,484 世帯 (44.3%)	1 3	5,009 世帯 (41.5%)

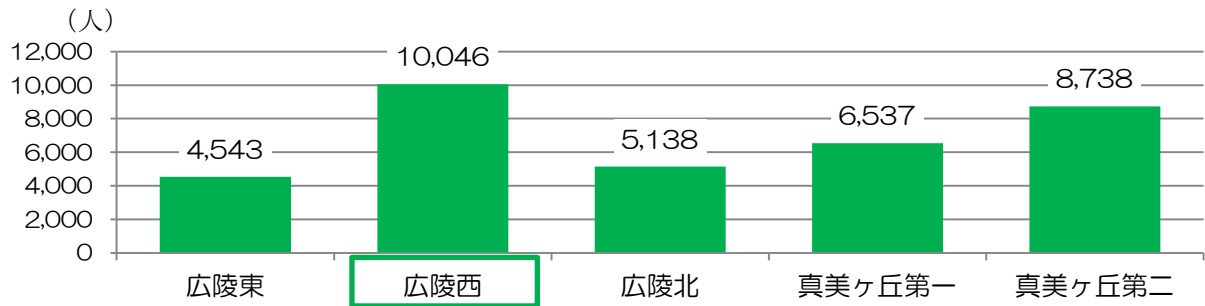
■広陵西小学校区の水準（全町＝1とした指数）



- 人口が最も多い。
- 全町平均に近い水準の地区。
- 年少人口比率が最も高い。6 歳未満同居世帯率は高いが、18 歳未満同居世帯率は低い。

3. 人口など

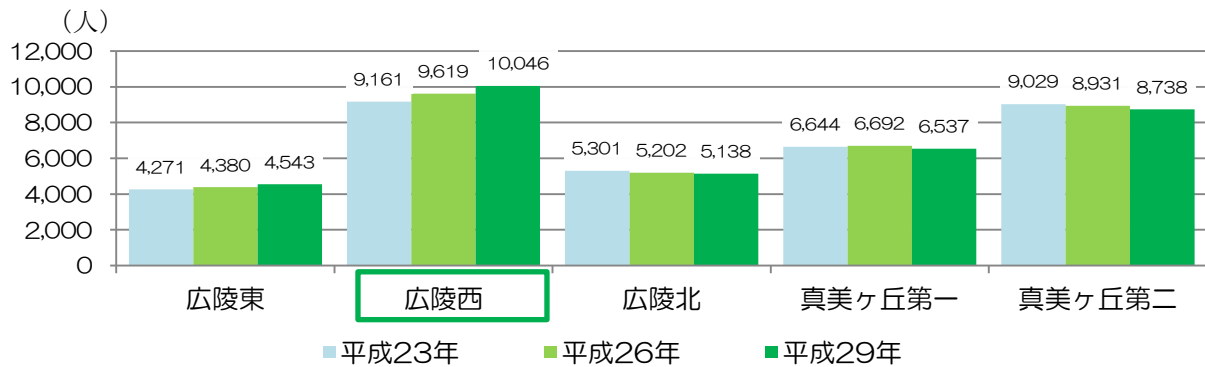
■総人口



資料：住民基本台帳（平成 29 年 12 月末）

広陵西小学校区の人口は 10,046 人で、全小学校区中 1 番目となっている。

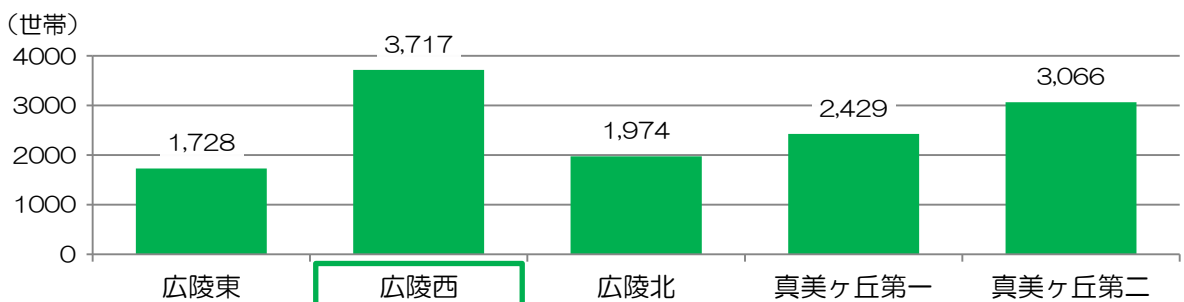
■総人口の推移



資料：住民基本台帳（平成 23 年、平成 26 年、平成 29 年、各年 12 月末）

広陵西小学校区の人口は、平成 23 年から比較して 885 人の増加（9.7 ポイントの上昇）となっている。

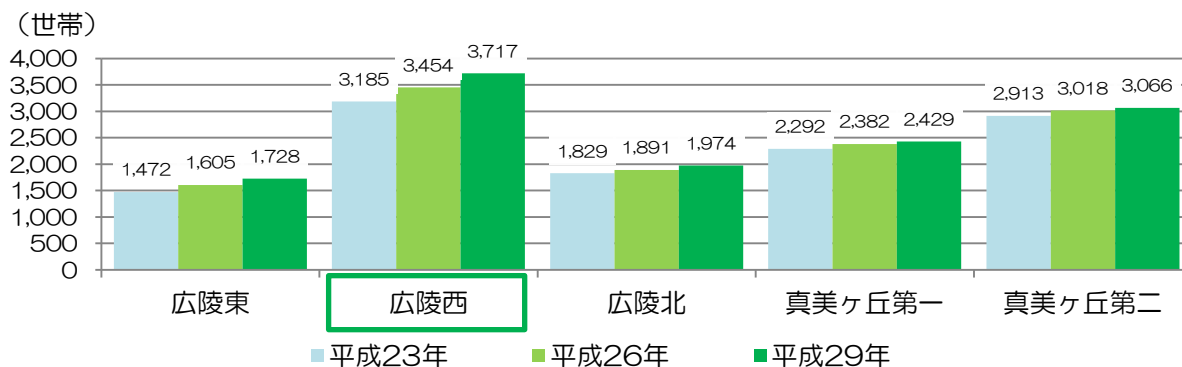
■総世帯数



資料：住民基本台帳（平成 29 年 12 月末）

広陵西小学校区の総世帯数は 3,717 世帯で、全小学校区中 1 番目となっている。

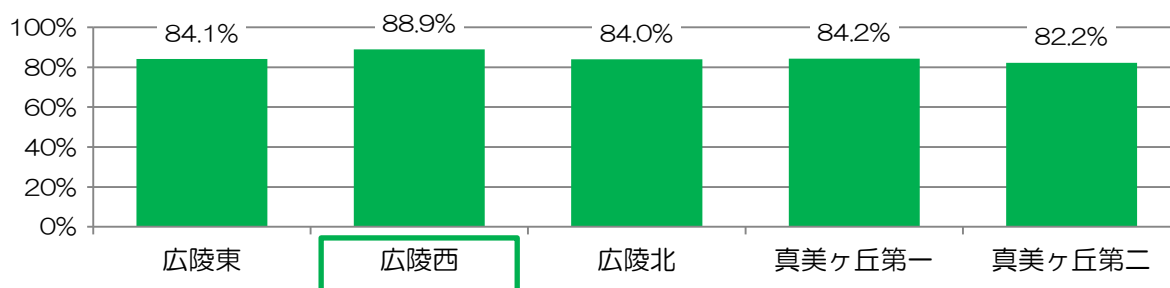
■総世帯数の推移



資料：住民基本台帳（平成23年、平成26年、平成29年、各年12月末）

広陵西小学校区の総世帯数は、平成23年から比較して532世帯の増加（16.7ポイントの上昇）となっている。

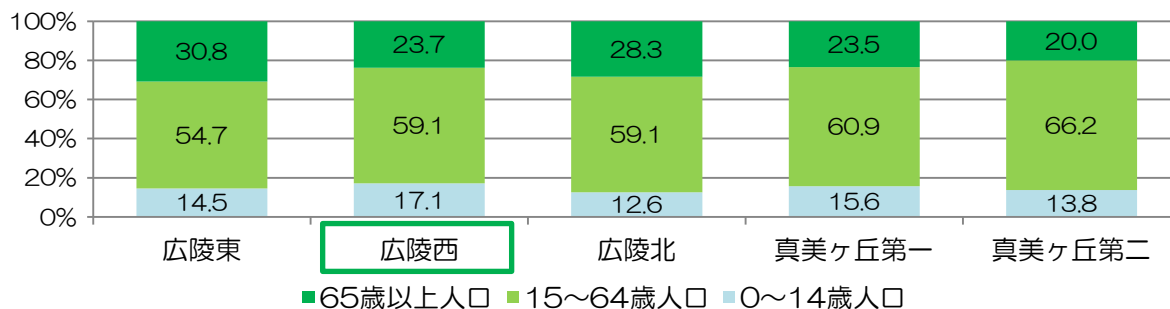
■自治会加入世帯割合



資料：区長・自治会長アンケート調査票（平成29年10月）

広陵西小学校区の自治会加入世帯割合は、88.9%で全小学校区中1番目となっている。

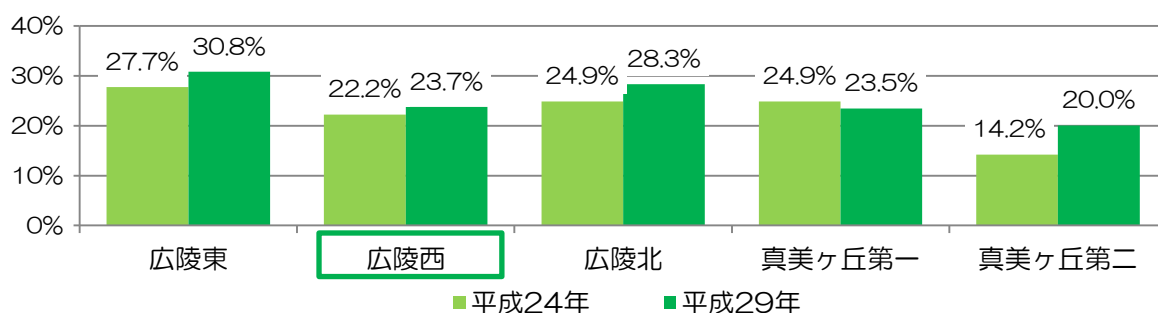
■年齢3区分人口構成比



資料：住民基本台帳（平成 29 年 12 月末）

広陵西小学校区の年齢3区分人口構成比は0~14歳人口が17.1%で、全小学校区中1番目、15~64歳人口が59.1%で、全小学校区中3番目、65歳以上人口は23.7%で、全小学校区中3番目となっている。

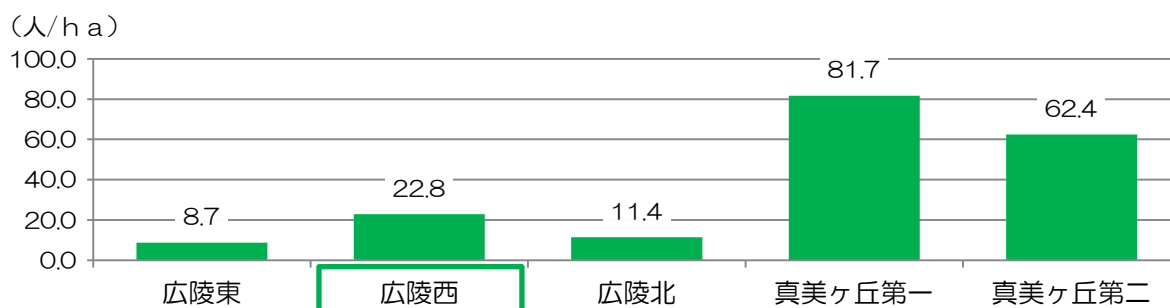
■高齢化率の推移



資料：住民基本台帳（平成 24 年、平成 29 年、各年 12 月末）

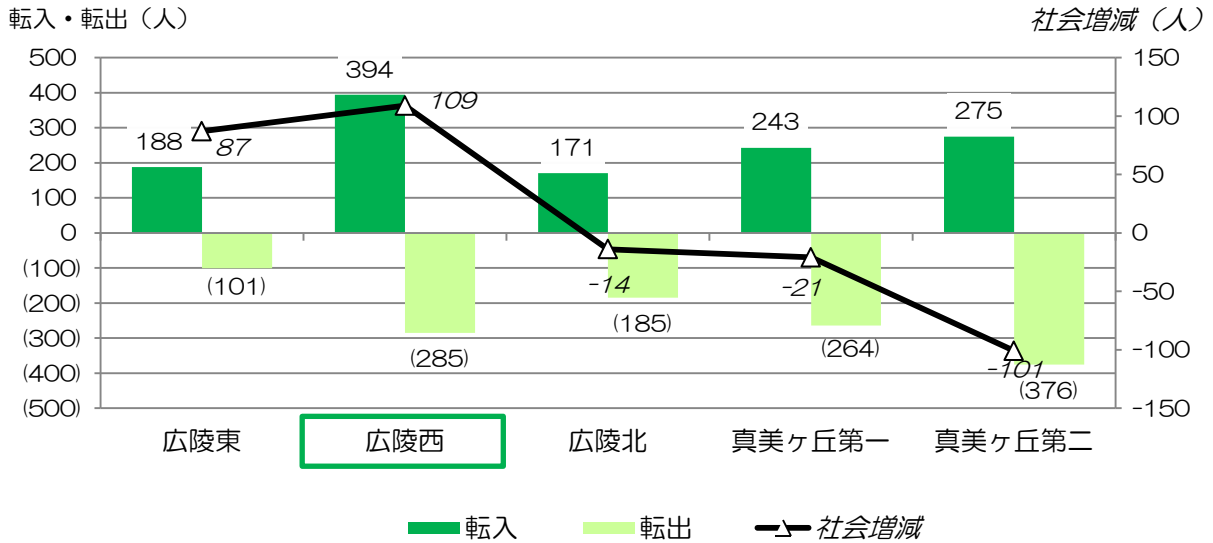
広陵西小学校区の高齢化率は、平成 24 年から比較して 1.5 ポイントの上昇となっている。

■人口密度



広陵西小学校区の人口密度は、全小学校区中3番目に高くなっている。

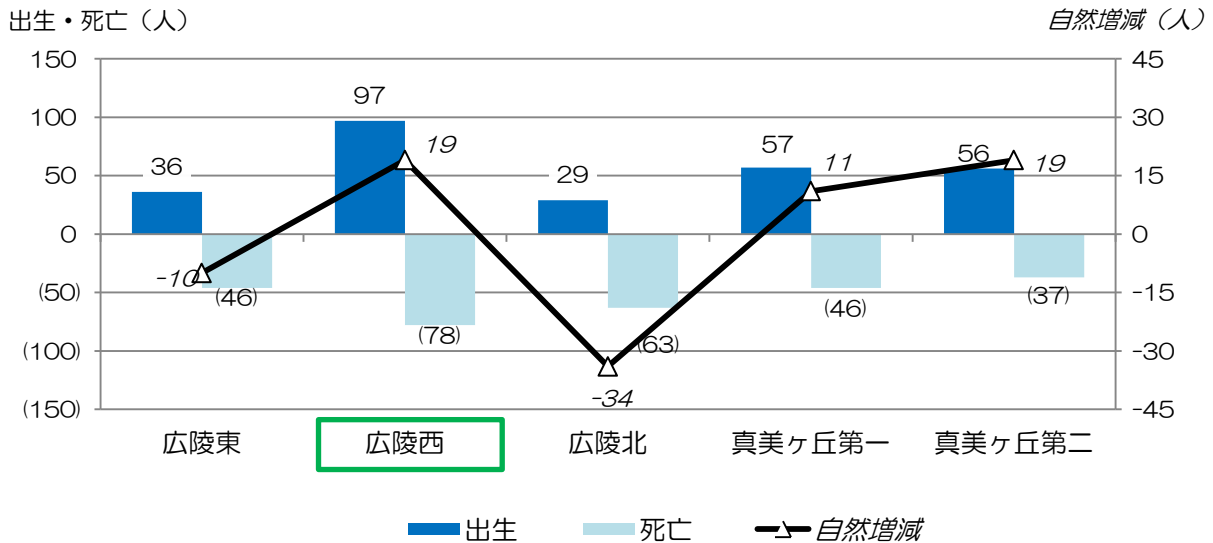
社会動態



資料：住民記録 増減表（平成 28 年度）

広陵西小学校区の社会増減は、転入が 394 人、転出が 285 人となっており、109 人の社会増となっている。社会増減数は全小学校区中最も高くなっている。

自然動態



資料：住民記録 増減表（平成 28 年度）

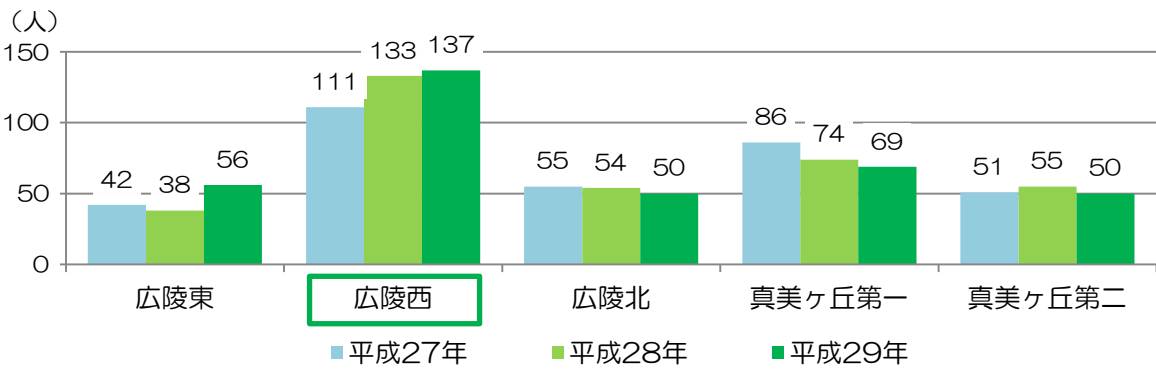
広陵西小学校区の自然増減は、出生が 97 人、死亡が 78 人となっており、19 人の自然増となっている。自然増減数は全小学校区中 1 番目となっている。

4. 保育・教育

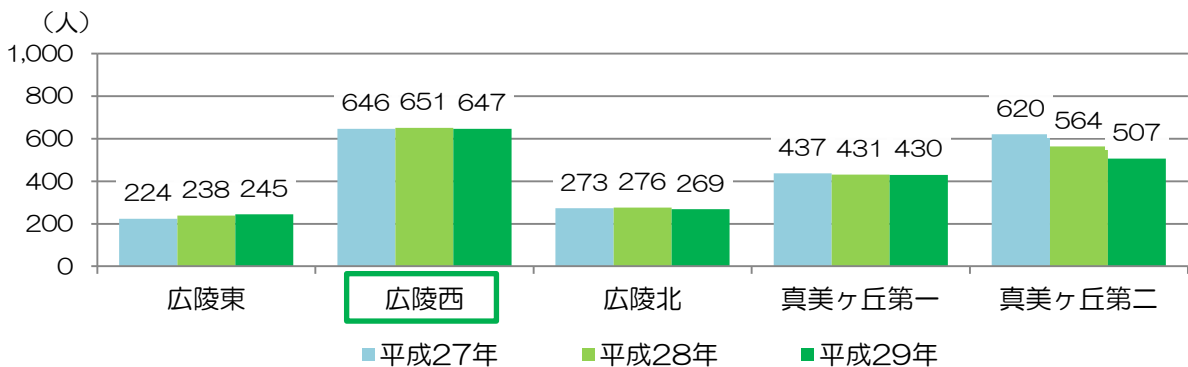
■保育・教育機関等

種類	名称	所在地
保育園	馬見労務保育園	平尾 546
保育園	ひだまり保育園	三吉 1874-2
幼稚園	広陵西幼稚園	三吉 24
幼稚園	広陵西第二幼稚園	平尾 512
小学校	広陵西小学校	平尾 542
中学校	広陵中学校	笠 355
放課後子ども育成教室	あすなろクラブ	平尾 542
放課後子ども育成教室	あすなろ第二クラブ	平尾 533

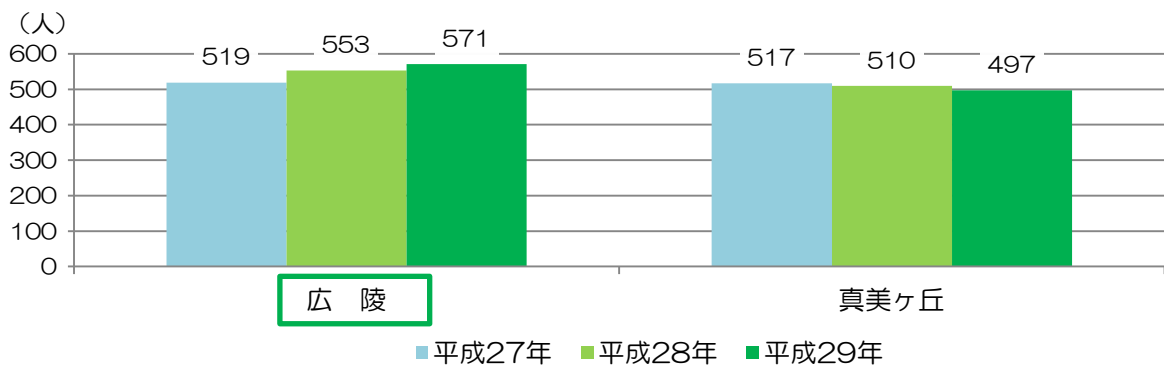
■幼稚園園児数の推移



■小学校児童数の推移



■中学校生徒数の推移



資料：学校基本調査（各年5月1日）

5. 文化

■指定文化財

指定	区分	種別	名称	所有者	所在地
国	記念物	特別史跡	巢山古墳	広陵町	三吉
奈良県	記念物	史跡	三吉石塚古墳	広陵町	三吉
広陵町	民俗文化財	無形民俗 文化財	大垣内の立山祭	大垣内	三吉

6. 公園・緑地

■公園等（指定緊急避難場所）

名称	所在地	水害	震災	火災
竹取公園	三吉地内	○	○	○
広陵第1号近隣公園	三吉地内	○	○	○

7. 防災

■指定避難所

名称	所在地	水害	震災	火災	耐震
広陵西小学校	平尾 542	○	○	○	○
グリーンパレス	笠 168	○	○	○	○
広陵中学校	笠 355	○	○	○	○
広陵中央体育館	笠 350-1	○	○	○	○
広陵中央公民館	笠 382-1	○	○	○	○
総合保健福祉会館	笠 161-2	○	○	○	○

8. スポーツ

■体育施設

名称	所在地
広陵中央体育館	笠 350-1
時計台公園グラウンド	三吉・笠地内

9. 医療

■医療機関・歯科医院

区分	名称	所在地
医療	杉原内科	三吉 70-2
医療	岡本クリニック	三吉 542-2
医療	松田内科医院	大塚 52-2
医療	高谷医院	大塚 728-2
医療	いけなか内科クリニック	安部 236-1-3
医療	ゆかわ眼科クリニック	安部 236-1-1
歯科	民上歯科医院	疋相 121-10
歯科	木村歯科医院	疋相 62-4メルヴェイユ・ヴィル
歯科	田村歯科医院	三吉 306-8

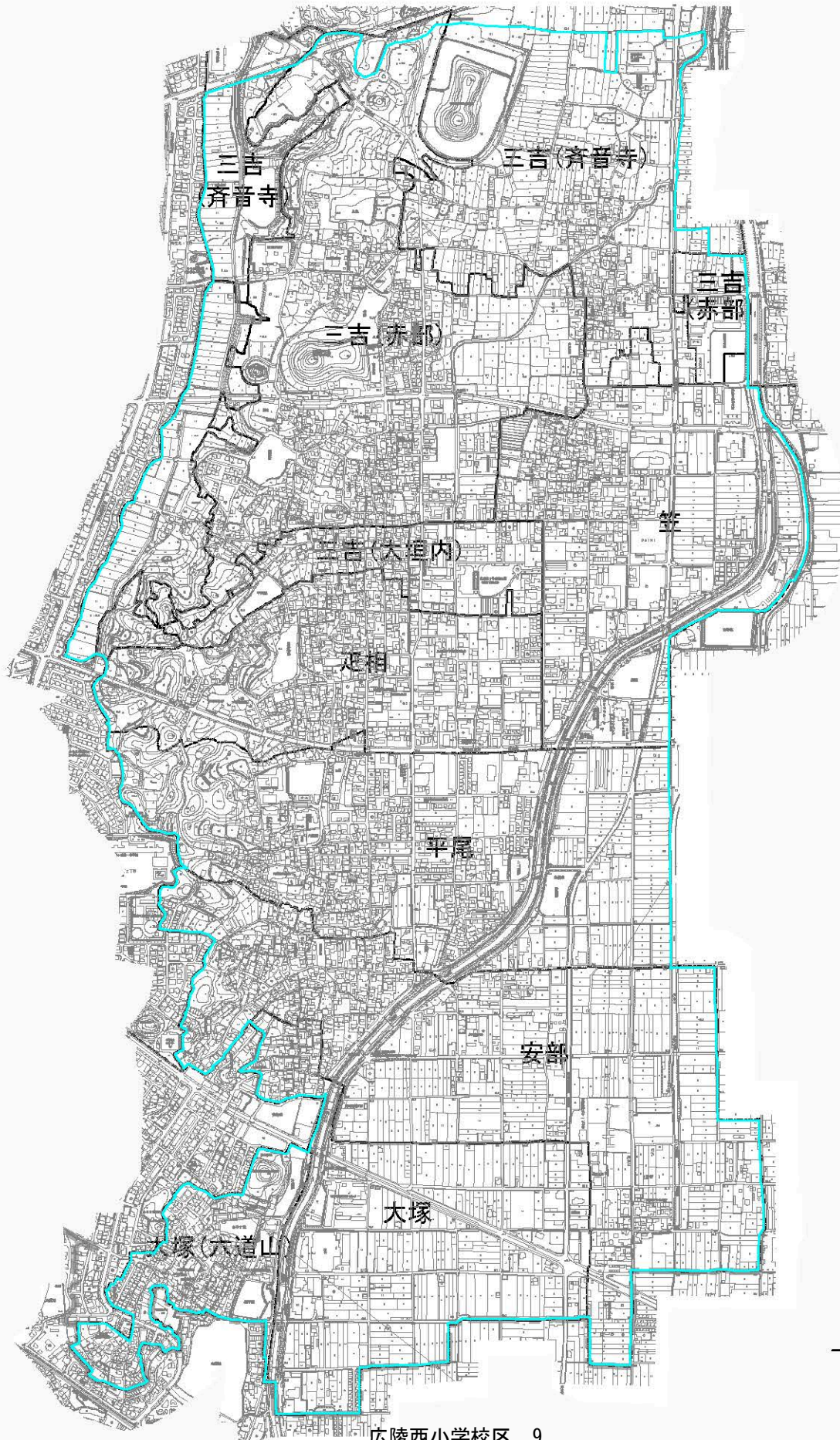
区分	名称	所在地
歯科	しんみょう歯科クリニック	安部 236-1-2
歯科	松本歯科クリニック	大塚 59-1

10. 介護・福祉

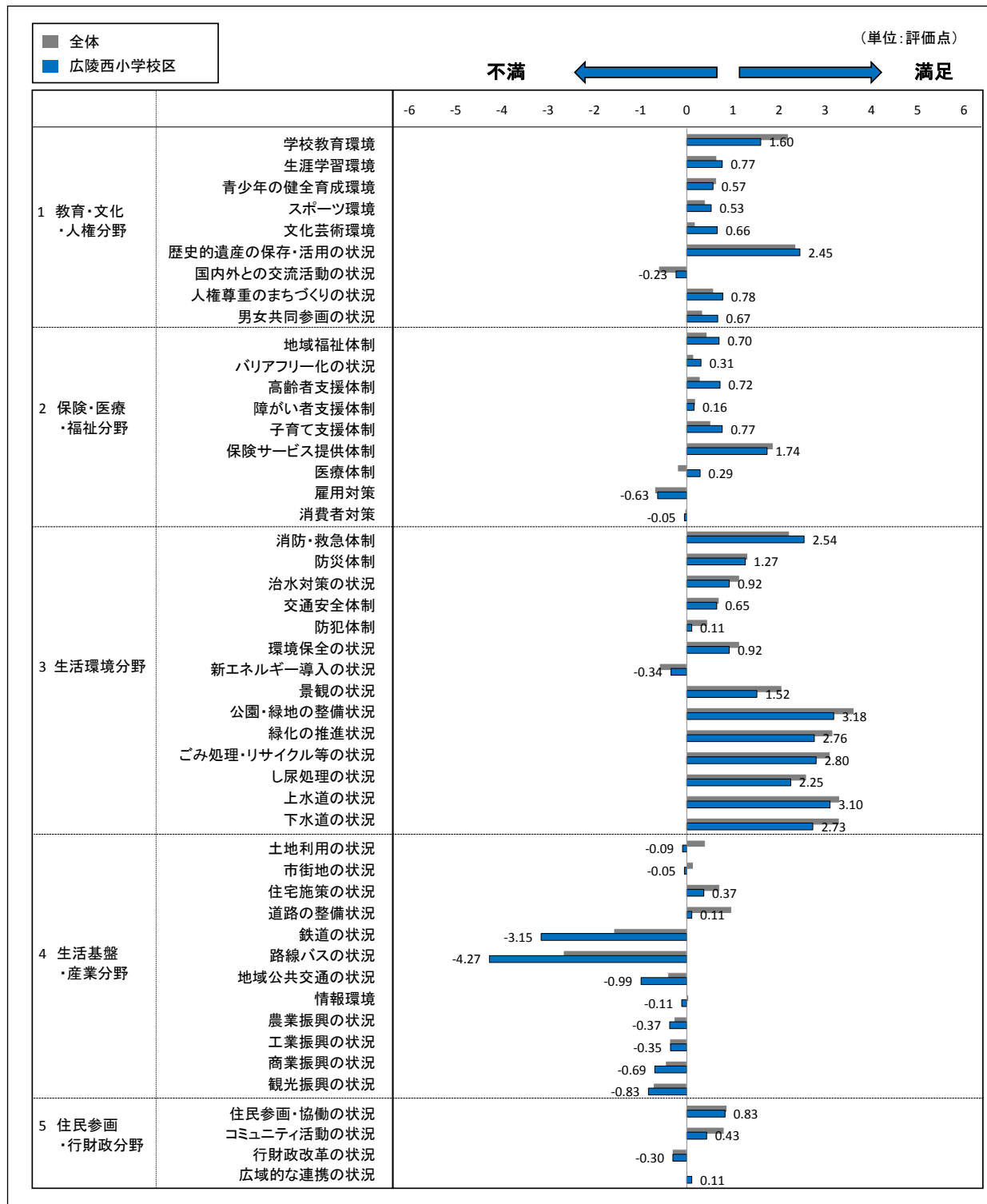
■事業所一覧

区分	名称	所在地
居宅介護支援 (ケアマネ)	特別養護老人ホーム大和園	三吉 169
	居宅介護支援事業所あかべ	三吉 264-1
	いやしの里オアシス	三吉 1266-6
	広陵町社会福祉協議会青い鳥	笠 161-2
	ニチイケアセンター広陵	笠 343-1
	笑み居宅介護支援事業所	安部 699-1
訪問介護 (ヘルパー)	笑み	安部 699-1
	広陵町社会福祉協議会青い鳥	笠 161-2
	大和園ホームヘルプステーション	三吉 169
	ミキ訪問介護ステーション	三吉 292
	いやしの里オアシス	三吉 1266-6
	ニチイケアセンター広陵	笠 343-1
	ヘルパーステーションあまのがわ (ほっこり庵)	平尾 709-7
	日和(ひより)ホットサポート(あ かべ)	三吉 264-1 (2F)
通所系サービス	デイサービスセンター青い鳥	笠 161-2
	大和園デイサービスセンター広陵 温泉	三吉 169
	いやしの里オアシス	三吉 1266-6
	ニチイケアセンター広陵	笠 343-1
短期入所系サービス	特別養護老人ホーム大和園	三吉 169
特定福祉用具販売	広陵町社会福祉協議会青い鳥	笠 161-2
	株式会社 ナカガワ	安部 432
福祉用具貸与	広陵町社会福祉協議会青い鳥	笠 161-2
訪問入浴	大和園訪問入浴センター	三吉 169
特別養護老人ホーム	特別養護老人ホーム大和園	三吉 169
有料老人ホーム	住宅型有料老人ホームほっこり庵	平尾 709-7
グループホーム	グループホームふれあい広陵	三吉 28-1
福祉介護タクシー	笑み	安部 699-1

広陵西小学校区マップ



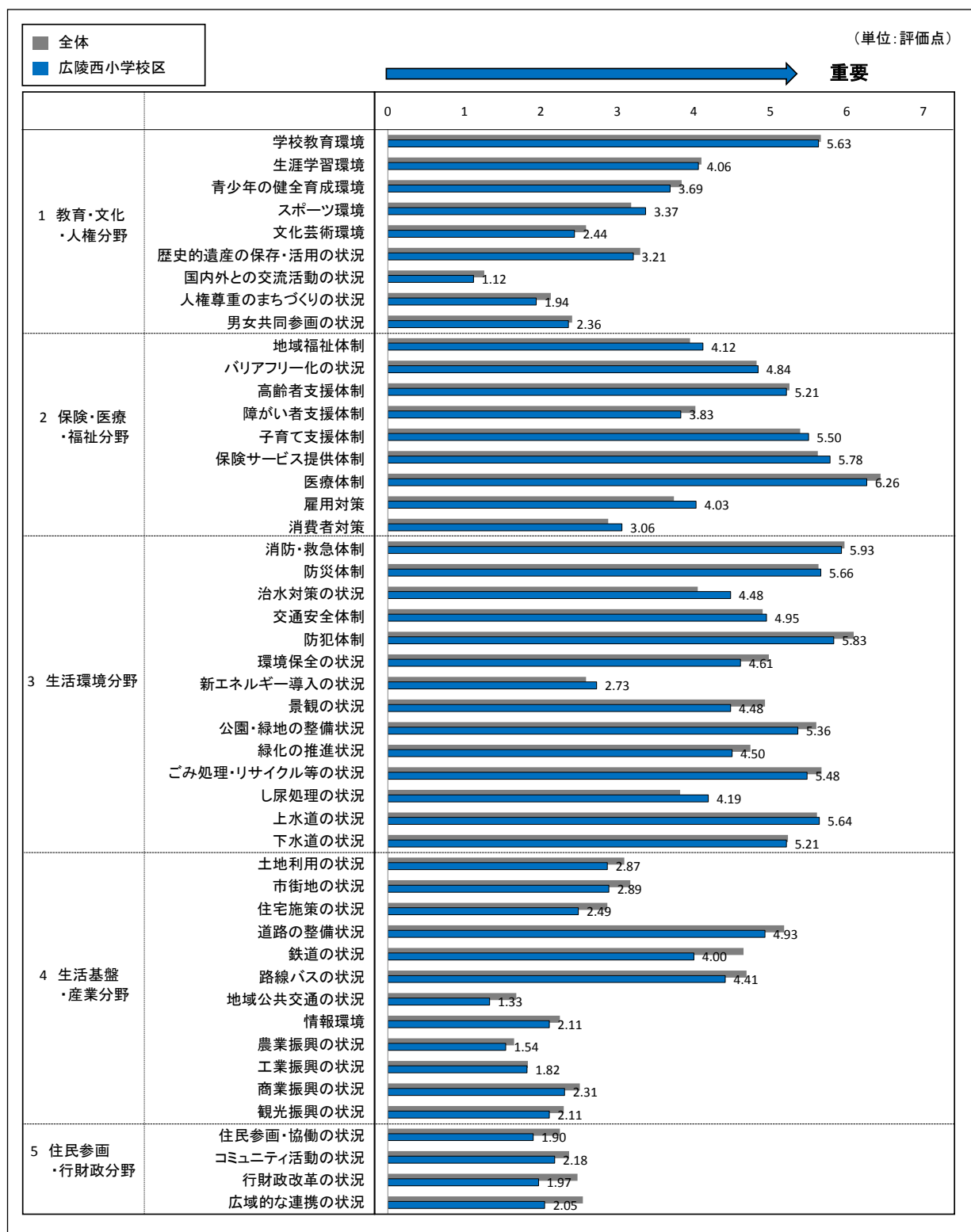
11. 現状に対する「満足度」(アンケート結果から)



各分野における現状の満足度について、広陵西小学校区の上位3項目は、「公園・緑地の整備状況」が3.18点と最も高く、次いで、「上水道の状況」が3.10点、「ごみ処理・リサイクル等の状況」が2.80点となっている。

下位3項目は、「路線バスの状況」が-4.27点と最も低く、次いで、「鉄道の状況」が-3.15点、「地域公共交通の状況」が-0.99点となっている。

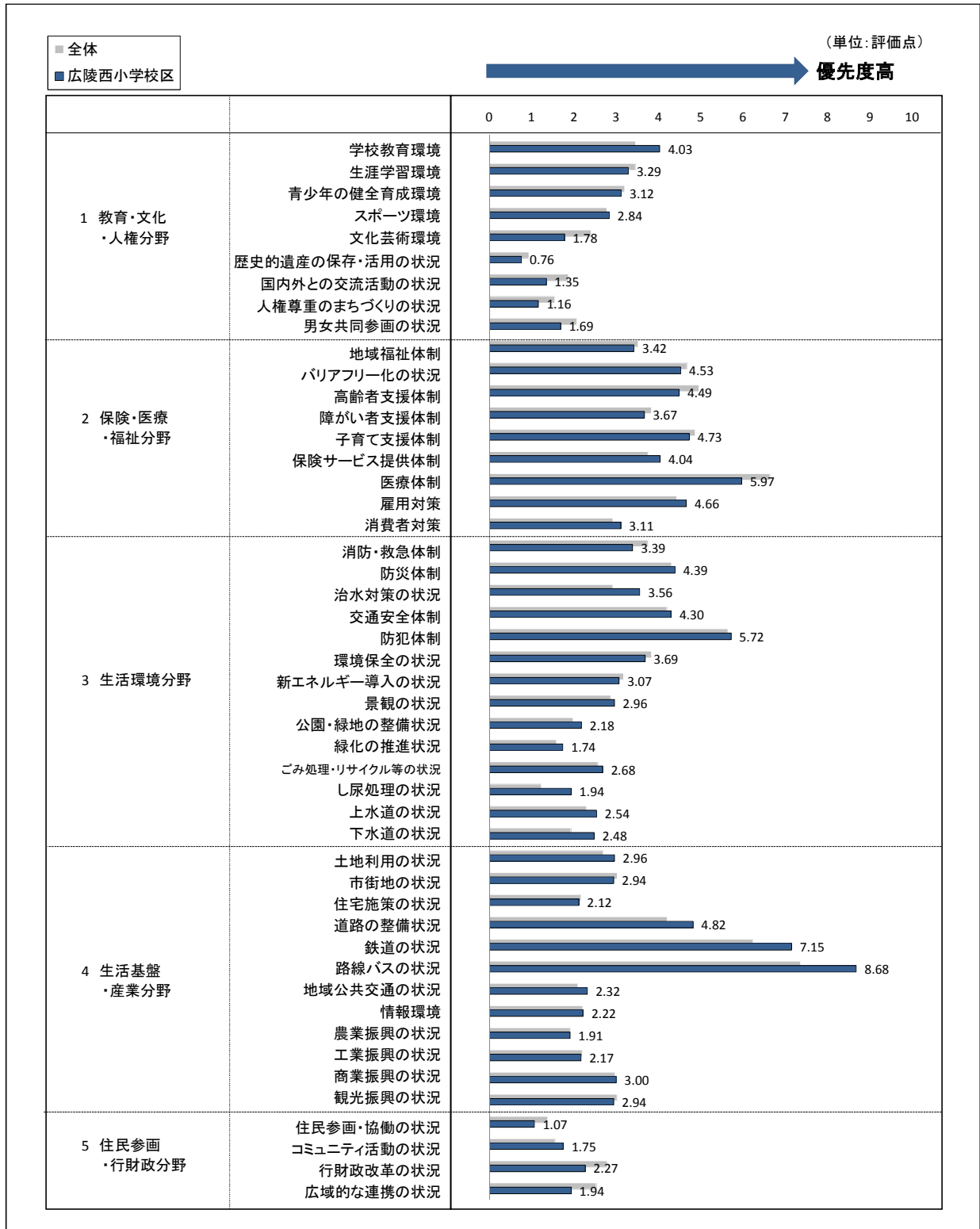
12. 今後の取り組みに対する「重要度」(アンケート結果から)



各分野の今後の取り組みに対する重要度について、広陵西小学校区の上位3項目は、「医療体制」が6.26点と最も高く、次いで、「消防・救急体制」が5.93点、「防犯体制」が5.83点となっている。

下位3項目は、「国内外との交流活動の状況」が1.12点と最も低く、次いで、「地域公共交通の状況」が1.33点、「農業振興の状況」が1.54点となっている。

13. 優先度<重要度評価－満足度評価>（アンケート結果から）



優先度について、広陵西小学校区の上位3項目は、「路線バスの状況」が8.68点と最も高く、次いで、「鉄道の状況」が7.15点、「医療体制」が5.97点となっている。上位2項目については、全体を上回っている。

※11. 現状に対する「満足度」、12. 今後の取り組みに対する「重要度」、13. 「優先度」<重要度評価－満足度評価> の評価点については、平成27年8月実施のアンケート調査において、広陵町の各環境について、教育・文化・人権分野、保健・医療・福祉分野、生活環境分野、生活基盤・産業分野、住民参画・行財政分野の5分野48項目を設定し、項目ごとに5段階で評価してもらい、その結果を加重平均値による数量化で評価点（最高点10点、中間点0点、最低点－10点）を算出した。その詳細については下記のとおり。

※加重平均値（満足度）の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（満足度）を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「満足している」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば満足している」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば不満である」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「不満である」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{「満足している」、「どちらかとい} \\ \text{えば満足している」、「どちら} \\ \text{ともいえない」、「どちらかとい} \\ \text{えば不満である」、「不満であ} \\ \text{る」の回答者数} \end{array}}$$

この算出方法により、評価点(満足度)は10点～－10点の間に分布し、中間点の0点を境に、10点に近くなるほど評価は高いと考えられ、逆に－10点に近くなるほど評価が低いと考えられる。

※加重平均値（重要度）の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（重要度）を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「重視している」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「やや重視している」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ + \\ \text{「あまり重視していない」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「重視していない」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{「重視している」、「やや重視し} \\ \text{ている」、「どちらともいえない」、} \\ \text{「あまり重視していない」、} \\ \text{「重視していない」の回答者数} \end{array}}$$

※優先度の算出方法

各項目の重要度（加重平均値）から満足度（加重平均値）を減算して算出する。

$$\text{優先度} = \left[\text{重要度（加重平均値）} \right] - \left[\text{満足度（加重平均値）} \right]$$

14. まちへの愛着度（アンケート結果から）

■まちへの愛着：広陵町に対して「自分のまち」としての愛着をどの程度感じているか

上段：人 下段：%	合計	とても愛着を感じている	どちらかという と愛着を感じている	どちらともい えない	あまり愛着を 感じていない	愛着を感じて いない	無回答
全体	985	245	479	186	55	14	6
	100.0	24.9	48.6	18.9	5.6	1.4	0.6
広陵東	116	36	52	16	8	1	3
	100.0	31.0	44.8	13.8	6.9	0.9	2.6
広陵西	231	65	108	44	9	5	-
	100.0	28.1	46.8	19.0	3.9	2.2	-
広陵北	141	38	65	25	11	1	1
	100.0	27.0	46.1	17.7	7.8	0.7	0.7
真美ヶ丘第一	208	43	102	45	15	3	-
	100.0	20.7	49.0	21.6	7.2	1.4	-
真美ヶ丘第二	286	62	151	56	12	4	1
	100.0	21.7	52.8	19.6	4.2	1.4	0.3

広陵西小学校区の定住意向は、「とても愛着を感じている」、「どちらかという
と愛着を感じている」が合計 74.9%となっており、「あまり愛着を感じていない」、「愛着を感じていない」の合計
6.1%を大きく上回っている。

15. 定住意向

■定住意向：これからも広陵町に住みたいか

上段：人 下段：%	合計	住みたい	どちらかとい えば住みたい	どちらともい えない	どちらかとい えば住みた くない	住みた くない (できれば引 越したい)	無回答
全体	985	428	307	178	54	14	4
	100.0	43.5	31.2	18.1	5.5	1.4	0.4
広陵東	116	53	31	17	10	4	1
	100.0	45.7	26.7	14.7	8.6	3.4	0.9
広陵西	231	108	57	50	13	2	1
	100.0	46.8	24.7	21.6	5.6	0.9	0.4
広陵北	141	62	37	25	15	2	-
	100.0	44.0	26.2	17.7	10.6	1.4	-
真美ヶ丘第一	208	88	72	38	7	2	1
	100.0	42.3	34.6	18.3	3.4	1.0	0.5
真美ヶ丘第二	286	115	110	48	9	4	-
	100.0	40.2	38.5	16.8	3.1	1.4	-

広陵西小学校区の定住意向は、「住みたい」、「どちらかとい
えば住みたい」が合計 71.5%となっており、「どちらかとい
えば住みた
くない」、「住みた
くない（できれば引
越したい）」の合計 6.5%
を大きく上回っている。

16. まちの魅力

■広陵町の魅力（上位5位）：広陵町はどのようなところが魅力か

	全体	広陵西
第1位	自然環境が豊かである	自然環境が豊かである
第2位	買物の便がよい	買物の便がよい
第3位	上・下水道やごみ処理施設などの生活環境施設が整っている	上・下水道やごみ処理施設などの生活環境施設が整っている
第4位	歴史的遺産が多い	歴史的遺産が多い（第3位と同数）
第5位	道路・交通の便がよい	道路・交通の便がよい

17. 住民参加のまちづくりについて（各自治会の役員などへのヒアリング結果から）

① 地域の防犯活動（子どもの見守り活動、地域パトロールなど）に関する考え方

■地域活動の現状	
六道山	○地域の防犯活動については民生委員やPTAが主体となって実施
大塚	○自警団による年末年始の夜警の実施 ○朝の交通安全の立哨
安部	○春、秋の年2回、交対協と区役員が交通安全立哨を実施 ○「こども110番」の旗を玄関に掲出
平尾	○民生委員、PTA地域委員、ボランティアが立哨を実施 ○カーブミラーの自主点検
疋相	○区とPTAがそれぞれ立哨を実施（立哨箇所の協議を行いより効果的に実施）
大垣内	○OPTAや民生委員等によるパトロールや通学時の交通安全の見守りを実施 ○自警団による年末巡回 ○犬の散歩時に自発的に通学時の見守りをしている方がいる
赤部	○通学路に時間や割り振りを決めずに自主的な見守り活動の実施 ○OPTAは1、5、10日に交差点で立哨を実施
斉音寺	○民生委員（笠、大垣内、斉音寺の3区）が神社・公園等のパトロールを実施（月1回） ○民生委員が週1回の集団下校時（水曜）に立哨を実施 ○OPTAが自転車に「パトロール中」の看板を掲げ、巡回を実施
笠	○登校時にPTAが見回り、下校時は村役員が1日、15日、25日に通学路の安全確認を実施 ○年末年始にパトロールを実施

■活動の実施に対する考え方	
中心的に取り組むべき団体	中心的に取り組むべき団体を選択した理由
<p> ■ 区 6 ■ 行政 2 ■ NPOなど 0 ■ その他 1 </p>	<p>「区」を選択した理由</p> <p>○「地域でできることは地域で」という意識が高く、防犯活動についてもできるだけ地域が中心となって行うべきと考えている。ただし、地域だけが主体となるべきではなく、町にも地域住民に対して防犯の注意喚起を促すなどの活動は行ってもらいたいという思いもある。</p> <p>○防犯活動は、行政・警察・区の協働でしていく必要がある。</p> <p>○地域の見守り活動として、ボランティアで実施している。</p> <p>○活動を実施する主体は、やはり区である。ただ、行政等の団体からの援助等は必要と考える。</p>
協働の必要性	
<p> ■ ある 6 ■ ない 3 </p>	<p>「行政」を選択した理由</p> <p>○治安が良いため不要。</p> <p>○OPTA、自警団等、強制的に実施するとなれば日中仕事している方が多いため、実施するのは困難。</p>

協働すべき団体	中心的に取り組むべき団体を選択した理由
<p> ■ 区 2 ■ 行政 5 ■ NPOなど 1 ■ その他 2 </p>	<p>「その他」を選択した理由</p> <p>○区として見守り活動は続けていくが、学童のことなので、PTAが主体となり、区がバックアップをする形が望ましいと考えるため。</p>

地域の防犯活動に関して、中心的に取り組むべき団体は「区」が最も多く選ばれており、次いで「行政」、「その他」の順となっている。「その他」では、「PTA」があげられている。

協働の必要性は「ある」が多く、67%が選んでいる。

協働すべき団体は、「行政」が最も多く選ばれており、次いで「区」及び「その他」が同数、「NPOなど」の順となっている。「その他」では、「警察」があげられている。

■自由意見
<p>○ひとりひとりの住民に防犯意識を持ってもらうことが重要である。自主的に防犯カメラを設置するよう町から住民に対して呼びかけるなどしてほしいとの意見があった。</p> <p>○高齢者はよく散歩しているので、そのついでにボランティアで地域の見回りをしてもらえるような体制づくりを考えてみてはどうかとの提案もあった。</p> <p>○防犯活動について、行政及び警察からの情報提供が欲しい。行政から空き家及び単身世帯の情報提供が必要。それによって区の方からも見守り活動や地域パトロールを検討する。</p> <p>○立哨に関して、交対協の方は特に熱心にして頂いているが、地元には負担がかからない方法を提案してほしい。</p> <p>○巡回等の活動が休日にも拡大するよう、行政の支援が必要である。巡回場所としては、公園など中心に実施したい。</p> <p>○自ら率先して活動を行う人があまりない。ただ、模範となるようなものがないため、なかなか活動するにも難しいところがある。例えば、他地域での成功事例等を教えてもらいたい。(事例によっては活用できるかもしれない)</p> <p>○60歳以上の人も働いている人が多く、活動できる人がいないため、ボランティアなどの助けが必要。</p> <p>○子ども達の見守りボランティアをつくりたい。</p> <p>○見守り活動等、ボランティア参加者への援助はどうか、活動時の保険も必要かと思うがどうするのか。</p> <p>○見守り活動時、近所づきあいが薄れているため、誰かわからないなど不審者と間違われたりする恐れもある。腕章・ジャンパー等制服の様なものを町・警察と連携して作ってはどうか。</p> <p>○登校は集団登校だが、下校時はバラバラに1人で歩いている子もいて、危ない気がする。</p> <p>○祭り等で顔を合わせる機会が多く、あいさつをしてくれる。また知らない人には近づかない・声をかけないと指導がされており、徹底されている。</p> <p>○しかし、人手不足等の観点から、思うように手が回らないというのが現状である。</p>

② 地域の防災活動（消防訓練、防災組織の設置など）に関する考え方

■地域活動の現状	
六道山	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の防災活動については、自警団が主体となって活動を実施 ○区と自警団が協力して毎年消防訓練は行っているが、放水訓練などはできていないのが現状 ○地域が中心の防災組織を作るべきとの考えから、現在組織作りを検討中
大塚	<ul style="list-style-type: none"> ○自警団の設置をして、防災活動や、消火栓の管理及び夜警の実施
安部	<ul style="list-style-type: none"> ○自警団による毎月のポンプの点検や年末夜警を実施 ○年1回、公民館で避難訓練を実施（参加者は少ない） ○自警団員が全員勤めているので、日中の防災活動の参加が困難
平尾	<ul style="list-style-type: none"> ○自主防災会を設立し6年が経過し、町主催の避難訓練に参加 ○年1回の消火訓練、隔年での講演会、AED講習会などの訓練を実施
疋相	<ul style="list-style-type: none"> ○自主防災組織は設置しているが、訓練は当初行って以来未実施（町主催の訓練には参加） ○自警団が定期的に消火栓や消防設備の点検を実施
大垣内	<ul style="list-style-type: none"> ○区単位で2～3年に1回防災訓練を実施（訓練はなかなか人が集まらない） ○自警団が定期的にポンプや消火栓の点検を実施 ○自主防災会（各種団体会員を割当て）を設置（事実上機能していない）
赤部	<ul style="list-style-type: none"> ○自主防災組織は設置しているが、3～4年前に防火訓練を実施。 ○自警団が、月1回消火栓の点検、消火器の点検など定期的に実施、年末には、5日間夜警を実施
斉音寺	<ul style="list-style-type: none"> ○消防訓練や人命救助、炊き出し訓練、防災士を招いての講義等を定期的に実施 ○自警団を配置
笠	<ul style="list-style-type: none"> ○過去に消防署職員を含めた訓練を行っていたが、役員等しか来ないため、現在は未実施 ○自警団によるポンプ点検を毎月実施

■活動の実施に対する考え方	
中心的に取り組むべき団体	中心的に取り組むべき団体を選択した理由
<p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 区 89% ■ 行政 11% ■ NPOなど 0% ■ その他 0% </p>	<p>「区」を選択した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域で実施するほうが効果的であるとの考え。しかし、地域だけで実施するには訓練内容に限界があるため、町にもっと協力してほしいとの思いがある。 ○区・行政・消防等の連携が必要。 ○行政の支援が必要だが、万が一に備えて避難訓練を実施している。 ○災害発生後すぐは、行政などの手を借りることが難しく、まず地元がなんとかしないとイケないので。しかし、災害発生後、長期スパンで考えたときには必ず行政の支援が必要になるので、協働での訓練が必要なため。 ○何か訓練等を実施する場合、アドバイスやサポートが欲しい。
協働の必要性	
<p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ある 78% ■ ない 22% </p>	

協働すべき団体	中心的に取り組むべき団体を選択した理由
<p> ■ 区 1 ■ 行政 6 ■ NPOなど 1 ■ その他 2 </p>	<p>「行政」を選択した理由</p> <p>○災害時の初動は区であるが、町が主体で区との連携をする。</p> <p>○区単位で行うより、町や消防署等と共同して訓練する自治組織を組んでもらった方がやりやすい。</p>

地域の防災活動に関して、中心的に取り組むべき団体は「区」が最も多く選ばれており、次いで「行政」となっている。

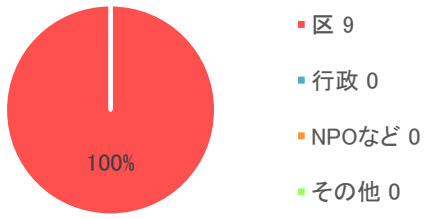
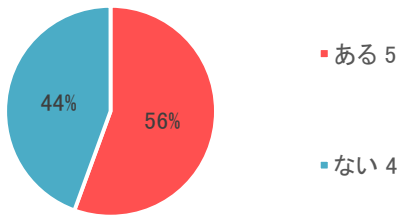
協働の必要性は「ある」が多く、78%が選んでいる。

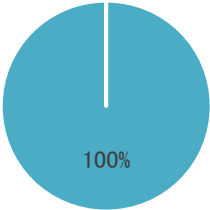
協働すべき団体は、「行政」が最も多く選ばれており、次いで「その他」、そして「区」及び「NPOなど」が同数になっている。「その他」では「消防」があげられている。

■ 自由意見
<p>○役場が行っている防災訓練については「形式的過ぎる」、「実際の災害に対応するには、もっと細かい地域単位でのリアリティーのある訓練が必要」との意見があった。町主催の訓練に地域が参加するというよりは、地域で行う訓練に町が協力するというのが望ましい。</p> <p>○防災活動について、行政及び情報提供が欲しい。行政から空き家及び単身世帯の情報提供が必要。</p> <p>○防災訓練の参加者が少ない(若者の参加が少ない)。</p> <p>○役員は参加するが、区民の方の参加が少ない。</p> <p>○防災無線が聞こえない。</p> <p>○自主防災会のあり方が今後の課題。</p> <p>○意識の希薄が顕著なため、意識付けの必要性。(訓練等での広報活動で、防災意識の啓発をするなど)</p> <p>○町の備蓄等を示してもらいたい。食べ物などどこまで用意しているのか。(区で必要な備蓄について検討するため)</p> <p>○区は初動のための備品が必要。</p> <p>○近隣公園の防災倉庫が使えなかった時のために、公民館に防災倉庫に近いものを設置してはどうか。</p> <p>○マニュアル等で区・自治会、行政ですべきこととの線引き(役割分担)等をしっかりしてもらいたい。</p> <p>○大字で訓練等を行っても現状人が集まらず、意味としては薄いと思われる。現在校区ごとに訓練を行っている箇所があるが、このように大字にとらわれず大きな団体でやっていくのがよいかも。しかし、音頭を取る人間をどのように選出するか等の問題が考えられる。</p>

③ 地域の清掃や美化活動（クリーンキャンペーン、つゆはりなど）に関する考え方

■地域活動の現状	
六道山	○地域で清掃活動(年2回)や農家がボランティアでつゆはり(年2回)を実施 ○清掃活動への参加率は、昔からの居住者はほぼ全世帯参加であるが、転入者(特にハイツ等に居住)の参加率はかなり低いのが現状
大塚	○実行組合がつゆはりを実施(年1回) ○区民全員でみちつくりを実施(年1回)
安部	○町主催のクリーンキャンペーンには各種団体が参加 ○安部周辺の溝清掃を実施(年1回) ○つゆはりは土地改良区が実施
平尾	○町主催の大和川水系一斉クリーンキャンペーンに参加 ○区全体のクリーンキャンペーン(年1回)、公民館、共同墓地周辺のクリーンキャンペーン(年3回)、公民館の花植え(年2回)、つゆはり(年2回)を実施
疋相	○町主催のクリーンキャンペーンに参加(年2回)し、区独自でも馬見川の清掃を実施(年2回、奈良県の地域の河川サポート事業を活用) ○区長個人がボランティアで幹線道路沿いを中心にゴミ拾いを実施
大垣内	○町主催のクリーンキャンペーンに参加(年2回)し、区管理地の剪定、溝清掃(年1回)、生け垣掃除(年1回)、毎月のお宮の掃除等を実施
赤部	○つゆはり【溝掃除】(年1回)、区有地の草刈り(年3回)、菅原神社清掃(年12回)を実施 ○老人会、婦人会による公民館内外の草刈り、清掃(年12回)
斉音寺	○クリーンキャンペーンを実施(年3回、時期により河川の清掃やつゆはり、ゴミ拾い、道路の草刈りなどを行っている)
笠	○町主催の大和川クリーンキャンペーン等に参加 ○区でつゆはりを実施(年1回)

■活動の実施に対する考え方	
中心的に取り組むべき団体	中心的に取り組むべき団体を選択した理由
 <p>100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 区 9 ■ 行政 0 ■ NPOなど 0 ■ その他 0 	<p>「区」を選択した理由</p> <p>○地域での生活に直結することであり、自分たちで行うべきことであると考え、できるだけ町にも清掃活動に協力してほしい。</p> <p>○清掃や美化活動は区内で実施するため。</p> <p>○行政の支援を受け、地域住民の協力を得て実施している。</p> <p>○クリーンキャンペーン等も大事だが区内を綺麗にするのは個人の心掛けが最も重要なため。</p> <p>○区として取り組んでいるが、行政からの支援・啓発も必要である。県や町全体で実施するほうが広報などの宣伝の効果もあるし統一感が出てみんな参加しやすい。</p> <p>○簡易な清掃は区でできるが、大規模な清掃は行政との連携が不可欠であると感じている。</p>
<p>協働の必要性</p>  <p>44% 56%</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ある 5 ■ ない 4 	

協働すべき団体	中心的に取り組むべき団体を選択した理由
 <ul style="list-style-type: none"> ■ 区 0 ■ 行政 5 ■ NPOなど 0 ■ その他 0 	<p>○ゴミ袋の配布や集めたゴミの回収は継続してほしい。</p>

地域の清掃や美化活動に関して、中心的に取り組むべき団体はすべての地域で「区」が選ばれている。

協働の必要性は「ある」が多く、56%が選んでいる。

協働すべき団体は「行政」が最も多く選ばれている。

■ 自由意見

○区民の参加率は非常に良い(区内の清掃については、区民であるという自覚がある)。

○参加者が高齢化している。

○個人宅周辺は地域で、幹線道路沿いや公共的な場所は行政にも協力してもらう必要がある。

○地域を綺麗に保つために最も重要なのは個人の意識である。

○ごみ減量推進委員の役割はどうなっているのか。取り組みがもっと必要。(役割が不明瞭)

○犬・猫等の糞尿被害があり、町でなんとかしてほしい。

○区内でも地域によってはほとんど清掃しなくてもいい場所などもあり、組によって意識感覚が違う。同じように参加してもらうのは難しい。

○堤防の草刈りは補助金が出ると聞いたが、地域の草刈りは補助金が出ない。

○大きな河川の清掃は、町がもっと関わって清掃をして欲しい。区の者だけの清掃には限界がある。佐味田川は、区の者でも引き上げられる。馬見川は入ることができないので、町から土木に依頼している状態であるが、なかなか動いてもらえない。町からもっと積極的に動いてもらえないか。もっと行政と連携して河川のクリーンキャンペーンを行いたい。

○基本的には冠婚葬祭がない場合は各世帯1名参加。不参加世帯には罰金ということもあったが、現状は廃止。

○池の周りの側溝が直線ではなく入り組んでいるため、大雨が降るとあふれやすい。

④ 公園や集会所などの維持管理に関する考え方

■地域活動の現状	
六道山	○集会所は婦人会が清掃を実施(月1回、区が補助金を支出) ○柏手池公園はシルバー人材センターに委託、児童公園と三角公園は町が管理
大塚	○公園・神社は敬神講、公民館は婦人会が清掃及び維持管理を実施
安部	○区内各種団体が公民館の清掃を実施(隔月) ○区内にある管理者(檀家等)のいない(又は少ない)寺社は区役員が清掃を実施
平尾	○公民館は区が維持管理を実施(改修などは、町から補助を受けている) ○公民館の清掃は婦人会が実施 ○借地公園は老人会が草刈りを実施
疋相	○区が公民館や寺、神社、溜池、水路のポンプの管理などを実施
大垣内	○借地公園、公民館は区が管理を実施 ○公民館の掃除等は子ども会や婦人会で実施(年4回程度) ○公園の除草は区で実施(年2回程度、維持管理に困っている)
赤部	公民館の維持管理は、区で実施 ○公民館内は、婦人会、公民館廻りは、老人クラブが清掃を実施 ○菅原神社は、全区民が輪番制で清掃、金毘羅社、讃岐神社は近所の方がボランティアで清掃を実施
斉音寺	○公民館の掃除は婦人会が実施(月1回) ○記三上神社の掃除は老人クラブと組親(当番制)が実施(月1回) ○借地公園の草刈りは定期的に実行組合が実施
笠	○集会所は、区が管理しており、老人会で清掃を実施(月1回) ○地域の広場の草刈りは、クリーンキャンペーン等の際に実施 ○神社の樹木の剪定はシルバー人材センターに委託

■活動の実施に対する考え方	
中心的に取り組むべき団体	中心的に取り組むべき団体を選択した理由
<p> ■ 区 9 ■ 行政 1 ■ NPOなど 0 ■ その他 0 </p>	<p>「区」を選択した理由</p> <p>○区で所有する物は区で管理すべきとの考え。しかし、財政的な面などから行政の力が必要なケースもある。</p> <p>○区内で維持管理ができています。</p> <p>○区で利用しているものであるため。</p> <p>○区にあるものを区で管理するのは当然なので。</p>
<p>協働の必要性</p> <p> ■ ある 6 ■ ない 3 </p>	<p>「区」、「行政」を複数選択した理由</p> <p>○公園は行政、公民館は区。(ただし、公民館の修理は行政)</p>

協働すべき団体	中心的に取り組むべき団体を選択した理由
<p> <input type="checkbox"/> 区 1 <input type="checkbox"/> 行政 6 <input type="checkbox"/> NPOなど 1 <input type="checkbox"/> その他 0 </p>	

公園や集会所などの維持管理に関して、中心的に取り組むべき団体は「区」が最も多く選ばれており、次いで「行政」となっている。

協働の必要性は「ある」が多く、67%が選んでいる。

協働すべき団体は、「行政」が最も多く選ばれており、次いで「区」及び「NPO など」が同数となっている。

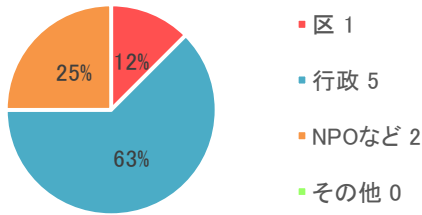
■自由意見

- 借地公園の草刈り、刈った草をトラックに積むまでするので処理して欲しい。ボランティア袋に入れれば処理してもらえ
るが、草の量が多く、また草が長い袋に入れるのが困難なため、現状はお金を払い、処分している。
- 区内に寺社が多いので管理が大変である。
- 管理者のいない寺社の管理(補修)に関して、町から補助金が出せないのか?(宗教関係の建物に補助を出すのは難
しいと、以前にも町長に言われた。)
- 借地公園の草刈りは大変であり、今後の課題である。
- 管理していく上で補助金等の支援は必要。
- 現在、管理面では区と行政でどちらがするか決まっているのになぜこの質問があるのか。当たり前のことをいまさら聞
かれても。公民館の清掃は区で修理費などは行政で。
- 借地公園については、維持管理が大変である。現在、遊具も古く使用されていないため、町で管理を考えてほしい。害
虫駆除や除草等は近隣住民に迷惑がかからないように心掛けているが大変気を遣うため町で何とかしてほしい。公園
としての機能を果たしていないので、もう返還してもいいのではないかと。シルバー人材センターで管理してもらう方法も
ある。簡易トイレはどこで管理か。
- 集会所等は村の所有物である以上、村が責任を持って管理すべき。

⑤ 高齢者などを対象とした福祉活動（見守り・声掛け活動、サロン活動等の集いの場の提供など）に関する考え方

■地域活動の現状	
六道山	○民生委員が主体となり、サロン『なごみ会』を実施(月 1 回、参加費無料で参加率も高く、顔ぶれの入れ替わりはあっても常時 25 人程度は集まっている)
大塚	○何か情報があれば、区長、副区長が主になって、単身世帯の声かけ、見守りを実施
安部	○老人クラブ会員数は多く、センターの利用は有線放送で呼びかけ実施
平尾	○カラオケグループが活動を実施(月 2 回、男性のみ) ○お楽しみ会、パークゴルフなどの自主的な活動
疋相	○シニア世代の脳活性化サロン(歌)、柚の会(俳句)、丘偶会(論語)等のサロン活動
大垣内	○高齢者の見守りは民生委員が実施 ○公民館でサロンの活動(将棋、囲碁、カラオケ等)のための準備は整えているがあまり活用はない ○香芝署の指導を得て「チャレンジ絆、あいさつ声かけ運動」を実施 ○絵画クラブ等、趣味の会の活動
赤部	○隣近所が声を掛け合い安全を確認、見守り活動は未実施 ○健康体操、カラオケ、編み物等の活動を定期的実施
斉音寺	○民生委員による定期的な訪問を実施
笠	○民生委員が中心となって、高齢者のふれあい場の提供を検討中(事故等の責任をどうするか等の問題から、思うように進んでいない) ○老人会が月 1 回程度公民館でカラオケ大会を実施

■活動の実施に対する考え方	
中心に取り組むべき団体	中心に取り組むべき団体を選択した理由
<p>■ 区 6 ■ 行政 3 ■ NPOなど 0 ■ その他 0</p>	<p>「区」を選択した理由</p> <p>○人と人との繋がりが弱くなってきているため、行政から情報を提供してもらえないと実施できない。</p> <p>○自主的な活動は把握しているが、支援などは行っていない。</p> <p>○今後、さらに高齢化が進んでいくと高齢者などを対象とした福祉活動や居場所も必要であるので。</p> <p>○サロン活動や見守りの人材育成・指導は行政である。</p> <p>○世話人が必要なため。</p>
協働の必要性	
<p>■ ある 7 ■ ない 2</p>	<p>「行政」を選択した理由</p> <p>○高齢者等を対象とした福祉活動は昔から民生委員が中心に活動を行ってきたため行政主体と考えるが、実際の生活で関わりが深いのは地域住民であり、地域としても声かけ運動等は積極的に行っていくべきとの思いがある。</p>

協働すべき団体	中心的に取り組むべき団体を選択した理由
 <p> ■ 区 1 ■ 行政 5 ■ NPOなど 2 ■ その他 0 </p>	

高齢者などを対象とした福祉活動に関して、中心的に取り組むべき団体は「区」が最も多く選ばれており、次いで「行政」となっている。

協働の必要性は「ある」が多く、78%が選んでいる。

協働すべき団体は、「行政」が最も多く選ばれており、次いで「NPO など」、「区」の順となっている。

■ 自由意見

- 声かけ運動もよいが、何か看板を町が設置してくれれば一番効果的ではないか？
- 地域担当職員制度よりも、シルバーから人を雇って地域の公民館に常駐させ、常に公民館に集えるようにしてくれた方が有益だ。
- 地域内に独居老人が多く、移動の足がないためイベント等にも参加できない人がいる。もっと元気号を利用しやすくしてほしい。
- 見守り、声かけが必要な方を行政から報告してもらって、福祉活動を区の方が実施していく。
- 高齢者に関しては、老人クラブが中心となって動いており、区としては特に見守り活動等を行っていない。
- 自主的な活動に対して、何か町として支援して欲しい。
- そういった活動を主催していくパワーのある人がいない。
- サロン活動をしてくれる人の育成や指導が必要。
- 現役世代も多く、なかなか参加者が増えない。
- 区の予算がないので町主催のコンサート、演劇会などを年数回程度開催してほしい。
- 運営にあたり、町からの支援はあるのか。
- 自主的な集まりはなかなか難しい。
- 公民館の鍵が区長の管理のため気を遣っている
- どの家庭に高齢者がいるのか、全て把握出来ていない。名簿を作ろうとしたが、個人情報の観点から作成出来ず。

⑥ 地域での子どもを対象とした活動(子ども同士や地域住民との交流の場・学習の場の提供など)に関する考え方

■地域活動の現状	
六道山	○区による祭りや、PTAによるラジオ体操を夏休みに3日間実施
大塚	○子ども会が七夕や新入生、卒業生の会、とんどなどを実施
安部	○夏祭り、だんじり、とんどを実施(子どもの参加が少ない) ○子ども会は数年前に解散(脱会者が増え、子ども会が活動できなくなった)
平尾	○区には子ども会がないが、秋祭りの餅まきや、PTAによるラジオ体操を夏休みに4日間実施
疋相	○異世代交流は地域の祭りや行事を通して実施
大垣内	○PTAや子ども会によるラジオ体操を実施 ○子ども会による七夕、模擬店、バザー、勉強会、遠足などを実施 ○立山まつり、だんじりまつりの実施や町民体育大会への参加
赤部	○子ども会活動として毎月公民館などで活動し、不要品回収にも毎月定期的に回収し積極的に活動 ○菅原神社の夏祭りに模擬店を出店し、また、各祭りの巫女に6年生女子が参加し、剣の舞を披露 ○秋祭りの山車曳行時に引き手として活躍し、また、子ども会役員も子どもの接待などに活躍
斉音寺	○子ども会による夏祭りや廃品回収の実施、区による秋祭りの実施や町民体育祭への参加 ○実行組合によるひまわりの種を植える活動があり、子ども会も種まき体験に参加
笠	○区による村祭りでのだんじりや子ども会による映画鑑賞や食事会等の実施

■活動の実施に対する考え方	
中心的に取り組むべき団体	中心的に取り組むべき団体を選択した理由
<ul style="list-style-type: none"> ■ 区 78% ■ 行政 11% ■ NPOなど 0% ■ その他 11% 	<p>「区」を選択した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の子どもは地域で見守り育てるという認識がある。 ○指導員の育成や町からの派遣が必要。 ○世話人をしてくれる人がいない。 ○地元行事が多く、交流する機会が多いため。 <p>「行政」を選択した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ○NPOが実施するなら全面的にバックアップしたいが、実際はそうはいかないので、行政主導になるのではないかと。 <p>「その他」を選択した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ○昔からPTAが主体となって活動していた。しかし、地域としてもできることがあれば積極的に活動を行うべきとの思いがある。
協働の必要性	
<ul style="list-style-type: none"> ■ ある 67% ■ ない 33% 	

協働すべき団体	中心的に取り組むべき団体を選択した理由
<p> ■ 区 2 ■ 行政 4 ■ NPOなど 2 ■ その他 0 </p>	

地域での子どもを対象とした活動に関して、中心的に取り組むべき団体は「区」が最も多く選ばれており、次いで「行政」及び「その他」が同数となっている。「その他」では「PTA」があげられている。

協働の必要性は「ある」が多く、67%が選んでいる。

協働すべき団体は、「行政」が最も多く選ばれており、次いで「区」及び「NPO など」が同数となっている。

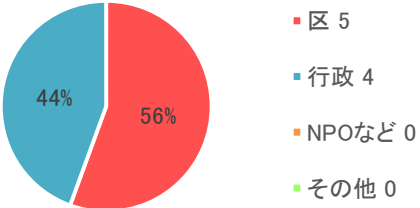
■自由意見

- 子ども会があれば地域が主体的に行える活動も増えると思うが、子どもの数が減ってきている上に役員のなり手がなく、再結成は現実的には難しい。どのような対策をとればよいのか全くわからない状態。
- 子ども達のどういう行動の場が必要なのか、どういう連携をしていくべきなのか、考える必要がある。
- 開発などで新しく入居した家族に関することが判らない。(子どもがいるのかいないのかなど)
- 子ども会は、世話をしてくれる人がいればいいが、任意参加になったことで加入者が減少している。
- 融通の利かない保護者も増えてきた。
- 地域内のつながりが薄くなっているため、つながりを増やすにはどうしたらいいか。
- 子ども世代で伊勢講連中がなくなってきている。”
- 町が主導になって、各区の子どもが交流をもつ機会を作ってはどうか。以前は、男子だけ「伊勢講」があった。今もその時の連中で集まることある。女子は「誕生会」があり、毎月のプレゼント等用意が大変そうだった。
- 子ども会は、高学年が役に当たることになるので、高学年になると辞めてしまうことが多い。行事が多く、負担になっているようだが、代々受け継いでやってきていることを辞めてしまうのも気が引けるようである。

⑦ まちづくりの方向性に関する考え方

■地域活動の現状	
六道山	○特になし
大塚	○区民と行政の協働に対する考え方に差が出ているため、現状の課題を解決することがまちづくりに繋がっていく ○次世代のリーダーになる担い手不足
安部	○隣接する区とは、意見交換や協力体制をとっており、自警団も協力し合っている
平尾	○役員のなり手が少なく、地域ともあまり関わりを持ちたくないという人が多い
疋相	○若い世代は増えており、定例会の出席や行事への参加など最低限の協力はしてくれているが、新住民の自警団などの各種団体への加入などは増えておらず、新旧住民の融和が必要
大垣内	○古い町並みで狭隘道路が多く、消防車などの大型車両が進入できないため、道路網の整備や観光資源ルートづくりを町と一体で取り組んでいくことが必要 ○ミニ開発などで転入もあるものの、従来地域の若者は町外・県外へ出ている場合が多く、区内中心部に空き家が増加 ○町指定無形民俗文化財である「立山まつり」を保存し継続、活用する ○各種行事を通じて、新旧住民の交流機会を増やしていく
赤部	○急激に広範囲にわたるミニ開発が進められることになり、計画的なまちづくりが困難で、防犯・防火・防災や区運営などが今後の課題 ○区と各種団体との連携が密接にできているが、若年層(新住民など)の加入が少なく、区の伝統行事を理解して頂く方法を考えていくことが今後の課題
斉音寺	○だんじりは無いが、秋祭りは近年賑わっている ○区長や役員を支える組親を配置し、区は組織として機能している
笠	○特になし

■活動の実施に対する考え方	
中心的に取り組むべき団体	中心的に取り組むべき団体を選択した理由
<p> ■ 区 5 ■ 行政 5 ■ NPOなど 0 ■ その他 0 </p>	<p>「区」を選択した理由</p> <p>○区のことなので区で決め、また町と協議し取り組んでいる。</p> <p>○区としてのまちづくりの方向性は、区で決めるため。</p> <p>○行政や周辺地区との協働があればより良い方向に進むのではないかと考える。</p> <p>○イベント時に借用できるようなもの(わたがし機ややしそば作りの鉄板等)を用意してもらえれば、より秋祭りが盛り上がるのではないかと考える。</p>
協働の必要性	
<p> ■ ある 7 ■ ない 1 ■ 未回答 1 </p>	<p>「行政」を選択した理由</p> <p>○「まちづくり」という大きなテーマについては、町が主体で検討すべきであると考えているが、地域と行政が協働で行えることについては、できるだけ地域も関わっていくべきとの思いがある。</p>

協働すべき団体	中心的に取り組むべき団体を選択した理由
 <ul style="list-style-type: none"> ■ 区 5 ■ 行政 4 ■ NPOなど 0 ■ その他 0 	<p>「行政」と「区」を選択した理由</p> <p>○区としてのまちづくりなら区ですべきではあるが、小学校区など範囲が広がるのであれば、町からの支援は不可欠。</p> <p>○行政が成功例を提示し、区に適した取り組みを進めたい。</p>

まちづくりの方向性に関して、中心的に取り組むべき団体は「区」及び「行政」が同数となっている。

協働の必要性は「ある」が多く、78%が選んでいる。

協働すべき団体は、「区」が最も多く選ばれており、次いで「行政」となっている。

■自由意見
<p>○中和幹線沿いの農業振興地域について町に要望を出している。まちづくりの方向性を地域で決めていいというなら、除外を認めてほしい。</p> <p>○現状の課題を解決することが直近のまちづくりと考える。</p> <p>○この項目は何をもとめているか質問の意図がわからない。区としてか、町のまちづくりのことかわからない。区としてのまちづくりとはどういうことか。役員はまちづくりに前向きではあるが、住民全員が同じ方向を向いているわけではない。まちづくりについて聞くには役員だけでなく広く住民の意見を聞くべきだ。ソフト的な支援や成功事例等の提示等をしてもらえれば参考にできる。</p> <p>○転入者はボランティア等の参加者も少ない。</p> <p>○現状に満足している点もあるから改善の要望があまりでない。そうなれば、まちづくりを考える必要があるか。</p> <p>○大企業の誘致など人口減少を食い止める手立てをとってほしい。</p> <p>○隣組はある。新興住宅が増えてきて、住んでいる人の顔や誰が住んでいるかもわからない。</p> <p>○町と区の連携について、個人情報への壁はあると思うが、区にまかせるなら、きちんと情報を渡して欲しい。</p> <p>○音頭等をとる人間がいないと難しいのでは。</p>